



# 森のなかま

2026年 2月号

NO. 212 (継続357号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 Tel046-297-0301・Fax046-297-0302

## 【自然観察部会主催 森林探訪】 「津久井湖城山公園を巡る」 共催：丹沢大山自然再生委員会

日時：令和7年 11月 22日（土）9:00～15:00 晴れ

参加者：28名、看護師：青木様

インストラクター：L 小池⑯、西岡⑭、牧石⑭、久慈⑯、鈴木⑯、伊藤⑯、堤⑯、橋川⑯、藤巻⑯

コース概略：JR 橋本駅→バスで津久井湖観光センター→城山山頂→パークセンター

→津久井湖観光センター（解散）

歩行距離 約 6km 標高差：250m

朝、起きて空を見上げると雲一つ無い青空、「今日はいい天気だ。きっと良い一日になるぞ！」と心を弾ませ、集合場所の「津久井湖観光センター」に向かいました。

深青緑色に佇む津久井湖、黄色や赤オレンジ色がところどころに散らされた鮮やかな山々に囲まれ、最高な気分のままスタートを迎えることができました。

鎌倉時代三浦半島一帯に勢力を誇っていた三浦氏の一族、津久井氏によって築城された「津久井城」跡を巡る津久井湖城山公園（標高 375m）を周回するコースです。

7班に分かれ、体操、オリエンテーションを行った後、出発。

モミジバフウやメタセコイアの大木の脇をとおり、坂道を上り始めます。途中左手にヒガンバナの群生（花が咲き終わった後に出ていた葉）、右手にカラスウリやスズメウリ等のツル性植物、階段ではノブキの花や実を観察しながら、山道へ入ります。

スギやヒノキ、モミ、カヤ、イヌシデ、フジキ等の大木の中、木々の間からところどころ津久井湖やその向こう側の山々の壮大な姿を見ることが出来ます。足元では、ベニシダ、ジュウモンジシダ、ハナワラビの仲間のシダ類や、シラヤマギク、シモバシラ、カシワバハグマ、横にはアオキ、コクサギ、ムラサキシキブ、コバノガマズミ、シキミ、ナンテン等の小高木から低木が並びます。途中キジョランを見かけ、アサギマダラの幼虫を探しました。

シジュウカラやエナガ等の鳥の鳴き声に耳を澄ませる場面、タヌキと思われる動物の糞もあり、植物以外のあらゆる生き物の存在を肌で感じる瞬間でもありました。



城山山頂から津久井湖を望む

キジョランを説明



さらに歩を進め、お昼前頃、頂上に到着です。頂上には、「津久井城の歴史・遺構」の看板や「築井古城記碑」があり、「津久井城」築城から豊臣秀吉の小田原攻めによる落城、そしてその遺構から歴史を感じ、当時の人々の生活に想いを馳せる場面もありました。お城に興味のある方が古城巡りとして楽しむことが出来る場所でもあります。

また、高尾山、小仏城山、景信山やその向こうに奥多摩や山梨方面の山々を一望することも出来、景色を堪能することも飽き足りません。昼食を摂りながら、カマツカの葉や実、ヤブコウジ、トリカブトの紫の花を観察し、出発です。

後半の下り坂では、やや道が急な為、「足元に注意して、ゆっくり歩きましょう。」と声を掛けながら、慎重に進みます。その後緩やかになってきた合流地付近にて、大木の切株のそばをイノシシが掘り返したような跡が数か所あり、これは、餌を探すためなのか、別に理由があるのか、イノシシの姿に想いを馳せてみたりしました。

また近辺に、赤やピンク色をした大きくて太い茎の圧倒的存在感のある植物を発見しました。ヨウシユヤマゴボウです。そのグロテスクな姿に感動しながら、さらに緩やかな道へと進みます。

途中、ノササゲの実やケンポナシの実等を手に取り細かく観察。チャノキやアズマヤマアザミを見ながら歩いていると、黄色い花の大きめの植物がありました。ヤクシソウです。

ヤクシソウは、葉を茹でておひたしとして食べられる事などを説明しながら、さらに進みます。

両側に植栽された木々が多数ある木道の曲がり道へ。ここでは、ムクロジ（葉の形・紅葉・実の有無）、ゴンズイ（実・樹皮の模様）、イヌザンショウ（葉の形）、イヌシデ、アカシデ（実の形・葉・樹皮の模様）、ツタウルシ（ツル・紅葉・葉の形）、クサギ（匂い・実の形）等を細かく観察。特に、クサギの実の青色の奥深さや青と赤のコントラストの美しさに、「きれい！きれい！」、匂いには「何とも言えない、微妙な匂い」との声も聽かれました。

パークセンターに到着。椅子に座ってトイレ休憩後、終点である観光センターを目指して、さらに歩を進めます。

途中、アオツヅラフジ、たくさんのピンクの花が咲いたボタンクサギの群生、大きな葉を持つキリの木、サラシナショウマ等を観察、さらにキジョランの実がさけているところや、中の種を手に取って細かく見たりしながらゆっくりと坂を下っていきます。最後、江川ヒノキ林の説明をしたところで終点に到着です。

体調を崩された方やケガをされた方も無く、無事、楽しく有意義に終えることができました。自然観察、古城跡地や歴史探訪、眺望を含め、奥深く楽しめた津久井湖城山公園でした。



さけたキジョランの実



(記 伊藤 誠⑯、写真 西岡 一郎⑰)

シリーズ

# 『やま』の色々

昨年から今年にかけての熊被害ニュースは目に余るもので、現場の関係者や学者等は今年はブナやなら類などの木の実が不作で山に食料がないために里山に出没していると説明／解説しています。森林管理署や自治体関係部局などからも同様の報告が聞かれます。でも、ブナやミズナラは不作年か並作年が普通で豊作の年はたまにしか来ないので、私は熊など野生動物の人里や都市周辺への出没には別の理由がある筈だと思います。今回寄せられた精粗様々ですが多くの情報から、これまで山での重要食料の果実等が不作年には民家近くまで出没して摩擦を起こしていたことが明らかになりました。特別に出現の多い年は前年豊作年で育てた子連れ熊が翌年の不作年に餌を求めて人里に近づくためで、その人里では過疎や高齢のため熊の出現や横行を止められないことも明らかになってきました。さらにヒトの居住空間には食料が豊富で、ヒトは危険ではないと認識した熊が市街地にも出歩くようだとの推測もされています。



図1\_熊だな\_まだ葉がある頃樹上で枝を折り敷いて実を食べた跡  
20061126\_水上の日大演習林  
近辺

住民が減少して野生との境界が曖昧になってしまった地域対策には妙案はありませんし、そこでヒトは怖くないことを学んでしまった熊等野生動物への対処法も、駆除以外の対策は思い付きません。

今はペットの多くの犬は、かつては熊をはじめ危険／迷惑動物の追い払いなど危険防止の役割があってそれは古い昔からの必然の付き合いだったのだと思います。その犬の放し飼いによる危険と熊等を追い払わせずに近づけてしまう危険との比較は現代では考慮外のものになっています。野生動物も幼い頃に犬に追われて身についた怖さは成獣になっても記憶に残るといいます。熊等と人間居住空間との境界領域では防御柵や電気柵は勿論、犬等生物を使った防護法の検討が必要だと思いますが、社会通念上簡単ではありませんね。



図2\_ミズナラの幹に残る熊の爪痕  
20100907\_日大水上演習林

## 第12回 天然林と野生生物の関係考 その1

公益社団法人 大日本山林会参与 桜井尚武 氏

ニホンジカ（シカ）の増加の問題は約50年位前から認識されています。シカはほとんどの種類の雑草木を根こそぎ食べます。シカの多い場所では表土が出るまで摂食したような所もみられます（図3）。立ち木も食べます（図4）。シカ群がまばらだった頃は彼らが移動すれば跡地の植生回復が望めました。シカ群密度が高くなつて広範囲に無植被の場所が増えました。その結果、ブナなどの高木種はともかく、熊等が不作の時に頼りにしていたであろう実のなる灌木や雑草木が失われ、利用できる森林の食料が不足する結果になったのでしょうか。熊対策にシカの駆除が課題に挙げられてもいます。シカの頭数管理は現在多くのところで官民一体の取組が行われています。



図3\_ブナ林のシカ防御柵内の左側と外側の無植被の対比\_20170603\_西丹沢大室山

危険／迷惑動物社会と人間社会の共存を図るには、どちらも一定密度下に抑えて増えすぎを防ぐ管理が必要でしょう。一定密度下の動物の採餌量を確保できる生活・活動空間の確保が大事です。行政は事故が起こって世論が大きくなつて初めて対応を考えるもので今がその時期と思います、人間社会も野生社会も野放図な拡大をしないような／出来ないような管理を進める必要があると思います。



図4\_シカに食害されたリョウブ（熊も皮剥ぎをします）  
20181013\_三頭山

桜井先生のご執筆内容にご感想やご質問がありましたら先生のアドレス [hayachines@yahoo.co.jp](mailto:hayachines@yahoo.co.jp) にお送りください！

## 活動短信

今回の掲載はR7年11月15日からR7年12月7日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

### 2月(如月)(旧暦1月 瞳月)の二十四節気、七十二候、鳥こよみ

**立春** 2/4 **雨水** 2/19、**黄鳶覗院** (うぐいすなく 2/9～13) 春の到来を告げる鳶が鳴き始めるころ。上手に囀るのは少し後です。**鳥こよみ**: 冬枯れの林は、様々な種類の小鳥が一つの群れになった「混群」に出会える場所。 ジュルリジュルリと賑やかなのはエナガ。 小さな体に長い尾は柄杓を連想させます。 北海道の真っ白アイドル、シマエナガ(亜種)は有名ですが、千葉には眉斑が薄いチバエナガ(俗称)がいますよ。

#### 活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明

以下のフォーマットに沿って記載をお願いします。  
送付先は最終ページに掲載。

##### ◆ 活動団体・活動名 等

日	日付: 令和x年x月x日(曜日)時間、天気
場	場所: 例 相模原市緑区 長竹承継分収林
参	参加者数: 例 15名 (大人 13名 子供 2名)
県	例 水源環境保全課 水源事業グループ XX様
財	(公財)かながわトラストみどり財団、看護師
ス	例 小田原市森林組合 XX様
	例 川崎市公園緑地協会 XX様
イ	インストラクター① (○数字:期) 研修枠
活	活動内容: 例 午前 間伐、午後 クラフトと自然観察 写真、活動詳細も受け付けます(任意)。

##### ◆ タカナシ乳業株式会社様 やどりき水源林整備活動

日	令和7年 11月15日 (土) 10:00～14:00 曇り
場	やどりき水源林
参	15名 (大人 14名、子供 1名)
県	水源環境保全課 藤原様、熊谷様
イ	L 岡村⑯、西出⑫、稻野辺⑮
活	林内整備



[https://twitter.com/kanagawa\\_sizuku](https://twitter.com/kanagawa_sizuku)

##### ◆ トキコシステムソリューションズ株式会社様

###### 第4回「未来につなぐトキコの森」

###### 森林再生活動・自然観察会

日	令和7年11月15日 (土) 9:30～12:30 晴れ
場	玄倉バス停～秦野林道
参	9名 (大人)
イ	L 上宮田⑪、前田⑪、森本⑯
活	自然観察会

##### ◆ アコム株式会社様 アコムの森(神奈川)

日	令和7年11月16日 (日) 10:15～14:45 晴れ
場	県林21世紀の森
参	13名
県	水源環境保全課 村松様
イ	L 田島⑯、三浦⑯、鶴田⑯
活	午前/午後 梯子を使った高所枝打ち作業

##### ◆ いすゞ自動車株式会社様

###### 第12回やどりき水源林保全活動

日	令和7年11月22日 (土) 10:15～14:00 晴れ
場	やどりき水源林
参	18名
県	水源環境保全課 野口様、熊谷様
イ	L 田島⑯、西出⑫、広浜⑯、森本⑯、廣瀬⑯、渡邊⑯
活	午前 自然観察とリース作り、間伐作業

##### ◆ 株式会社東横建設様 林内整備活動

日	令和7年11月22日 (土) 9:00～14:00 晴れ
場	県立21世紀の森
参	15名 (大人 13名 子供 2名)
県	水源環境保全課 星様 秋本様
イ	L 上宮田⑪、斎藤⑯、大川⑯、鈴木⑯
活	午前 間伐、午後 丸太切り (コースター作り)

##### ◆ 県民参加の森林づくり活動

日	令和7年11月23日 (日) 8:20～14:00 晴れ
場	小田原市久野 (水垂)
参	70名 (大人)
財	(公財)かながわトラストみどり財団 倉野様、古館様
ス	小田原市森林組合 城所様
イ	L 上宮田⑪、菊地①、野牛⑧、渡辺(敏)⑫、藤代⑬、黒川⑯、永田⑯、堀口⑯、三好⑯、杉山⑯、川口⑯、鈴木⑯、平出⑯、桑島⑯、山口⑯、繁山⑯
活	枝打ち (平成25年～27年生 スギ・ヒノキ)

◆ 横浜市立釜利谷東小学校

「令和7年度第5学年愛川宿泊体験学習」の間伐体験

日	令和7年11月27日(木)	10:00~14:30	晴れ
場	長竹承継分収林、愛川ふれあいの村		
参	58名		
財	(公財)かながわトラストみどり財団 倉野様		
イ	L田島⑯、野牛⑧、松石⑬、牧石⑭、内田⑮、大川⑯、 鈴木⑯、藤巻⑯		
活	午前 間伐作業／午後 丸太切り体験		



◆ 株式会社日本経済新聞社様 日経 森林保全活動

日	令和7年11月30日(日)	10:00~15:00	晴れ
場	やどりき水源林		
参	33名(大人28名、子供5名)		
県	水源環境保全課 水源事業グループ 村松様		
イ	L牧石⑯、西出⑫、稻野辺⑬、森本⑯、小林⑯		
活	午前 間伐と自然観察、午後 間伐とクラフト		

◆ ユニプレス株式会社様

森林整備 in やどりき水源林

日	令和7年12月5日(金)	10:00~15:00	晴れ
場	やどりき水源林		
参	20名		
県	水源環境保全課 水源事業グループ 藤原様、星様		
イ	L牧石⑯、西出⑫、石垣⑯、小国⑯		
活	午前 間伐、午後 自然観察		



**かながわ水源の森林づくり**  
元気で活力ある水源地域の森林を育てましょう

かながわ水源の森林づくり - 神奈川県ホームページ

◆ 活動団体 日揮ホールディングス株式会社様

日揮グループ水源林保全活動

日	令和7年12月6日(土)	9:00~15:00	晴れ
場	やどりき水源林		
参	11名(大人9名、子供2名)		
イ	L上宮田⑪、藤井(敏)⑯		
活	午前:リース作りのスギ調達と竹灯籠の準備～ミニ散策と森林浴 / 午後:リース作りと竹灯籠作り～リラクゼーション(クロモジ茶とカップケーキ付)		

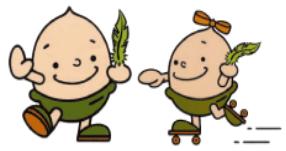
◆ 公益財団法人鎌倉市公園協会

令和7年度 緑のレンジャー講座 第6回

日	令和7年12月6日(土)	10:00~14:30	晴れ
場	鎌倉市 鎌倉中央公園		
参	16人		
ス	鎌倉公園協会 内田様、住友様		
イ	L鈴木⑯、安部⑤、柳沢⑯		
活	午前:ちびっこ広場で高枝切断、下草刈り、切断材整理 / 午後:インストラクターからの講話、受講生からの質問・感想		

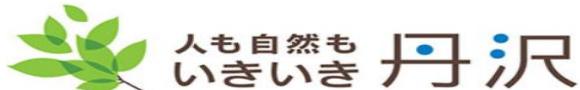
◆ アコム株式会社様 アコムの森(神奈川)

日	令和7年12月7日(日)	10:15~13:00	晴れ
場	堀山下水源林		
参	22名		
県	水源環境保全課 星様、熊谷様		
イ	L田島⑯、上宮田⑪、西出⑫、野口⑯、大川⑯		
活	午前 竹林整備(午後活動なし)		

Green Fund  
Symbol Logo  
dongurikun · dongurichan

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。



人も自然もいきいき 丹沢

丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページでご覧ください。<http://www.tanzawasaisei.jp/>

## やどりき水源林ミニガイド

### 「やどりき森の案内人」

「森の案内人」 森の案内人は12月～2月はお休み。3月から再開します。

### 「やどりき水源林ニュース」

過去号は上記リンク先からご覧になれます。

### やどりきの森へ行こう！

水源林のミツマタ群生鑑賞のお知らせ

2026年3月15日（日）★少雨決行

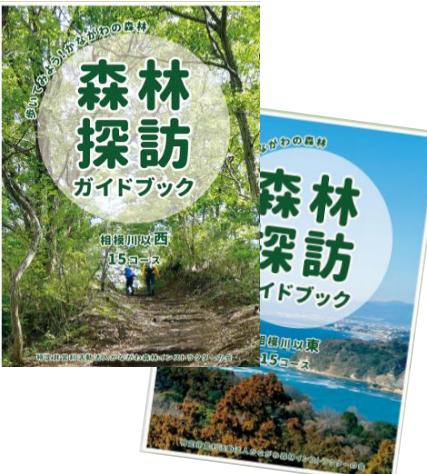
申し込みは上記リンク先から！



### 森林探訪ガイドブック 好評販売中！

『森林探訪ガイドブック』は、かながわの自然を愛する森林インストラクターが力を結集して企画・編集したガイドブックです。

A5フルカラー52頁、動植物や史跡等の写真多数、地図、高低差図、ミニ動画ガイド付きです。在庫がなくなり次第、販売終了となりますので、お早めに購入申込みしてください。定価：相模川以西、相模川以東 各700円（税込）右のQRコードから！



やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL：045-412-2255 / FAX：045-412-2300

<https://ktm.or.jp/> Mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: [kinst0981@friend.ocn.ne.jp](mailto:kinst0981@friend.ocn.ne.jp)

### 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回／1年間お届け致します。

### 森のなかまは過去号もご覧になれます

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>  
(HP担当:森本 利弘)

### ◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

#### <広報全般お問い合わせ>

河西 静夫

[skasai0618@gmail.com](mailto:skasai0618@gmail.com)

#### <電子配信会員向け担当>

小池 宗子

[muneko-sakura@outlook.jp](mailto:muneko-sakura@outlook.jp)

#### <本誌、別冊原稿送り先>

河西 静夫

[skasai0618@gmail.com](mailto:skasai0618@gmail.com)

小国 一男

[ka-oguni@ab.auone-net.jp](mailto:ka-oguni@ab.auone-net.jp)

受信漏れを防ぐため本誌、別冊とも上記に2名にお送りください

### ◇ 編集後記 ◇

★ 竹とんぼ作成用に地元の活動場所で切り出した孟宗竹を、自宅で陰干しすることにしました。マンションの狭いベランダに、邪魔にならないよう適当な長さに切り、なるべく雨や日光が当たらないような位置にロープで固定しました。果たして上手いこと行くのか、、暫くは雨風を気にして過ごすことになりそうです。（小国）

★ 東海道五十三次4番目の宿場町は保土ヶ谷宿になります。保土ヶ谷宿の焼坂に日本橋から九番目の品濃一里塚は現在も街道の左右に残る県の史跡に指定された名所です。慶長9年徳川幕府は街道を整備し、一里毎に5間四方の塚を造り、エノキやマツが植えられました。『家康に何の木を植えましょうか？』と聞くと「ええ木を植えよ」言つたのを側近が「エノキ」と聞き間違えたそうです。保土ヶ谷宿は日本橋から約33km、次の戸塚宿までは約42kmです。保土ヶ谷を過ぎると権田坂が待っています。民家のない鬱蒼とした山道を通常男性は、夕方までに権田坂を草鞋で超え、フルマラソンの距離を歩いたのです。私たちの祖先は健常な足腰を備えていたのですね。（小林照）

★ 広報部の身内びいきのようで恐れ入ります。本誌の「鳥こよみ」がお気に入りです。鳥の観察はタイミングが大事です。せっかく準備した双眼鏡も、出番は今まで2度だけ。今期は、野鳥の観察がたくさんできますように（願）（小池む）



編集人：河西 静夫

広報部：黒川 敏史、松本 保、笠原 かずみ、長尾 晴子、小林 照夫、大友 博道、小国 一男、小池 宗子、森本 利弘

支援：大原 正志、吉田 郁夫